２　高本の万治３年銘庚申塔についての修正と補遺

蕨 由美

はじめに

『史談八千代』前号（第 45 号）の「高本の万治３年銘庚申塔とそのスタイル「三猿三面彫塔」の広がり」（注 1）の中で、この庚申塔は八千代市内で最古の庚申塔であるばかりでなく、三面各面に一猿ずつ配し、願文を刻した角柱型の三猿三面彫庚申塔の類型は、その後、寛文から天和にかけて、高本から八千代市内と隣接市域に広がっていくこと、関東地方でも初期庚申塔として類型が多数みられることなどを報告した。

その後、この庚申塔の銘文について、房総石造文化財研究会会長の早川正司氏から人名銘の釈読についてご指摘をいただき、また八千代市域の三猿三面彫庚申塔の一部写真に入れ違いがあったことに気づいた。

今回改めて、文化財としてのこの高本の庚申塔の重要性を鑑み、謹んで、表１の万治３年銘庚申塔の碑面下部の人名の銘文の訂正、および表３右下の「⑧天和２年八千代市平戸字道地」の石塔全体像の写真の差し替えをする。

併せて、その後の調査でわかった近隣の三猿三面彫庚申塔として、白井市の上長殿庚申塚庚申塔１基を加え、また HP「神奈川県の庚申塔」から判明した寛文年間の三猿三面彫庚申塔の情報を紹介する。

１．万治３年銘庚申塔の碑面下部の人名の銘文の訂正

碑面下部の人名について、早川会長のご指摘を受けて、拓影と照合した結果、表１のように訂正する。

未読で判明した名前は「佐五良」と「与七郎」である。誤読は、「五郎」を「又□郎」に、また「四良右エ門」・「庄十良」・「三良右ェ門」は、それぞれ「郎」を「良」に訂正した。

２．白井市の天和２年銘庚申塔について

八千代市内と隣接市域の三猿三面彫庚申塔として、高本のほか８基の庚申塔があると前号で述べたが、さらに白井市の上長殿庚申塚の天和２年（1682）銘の庚申塔が三猿三面彫庚申塔に該当することがわかった。

白井市では、延宝３年（1675）富ケ谷薬師堂の塔に次ぐ２基目の三猿三面彫塔で、高さ 90 ㎝の笠付角柱型、台石に水鉢と線香立の穴がある。

銘文は、正面に「天和二壬戌年霜月吉日／（ア）奉供養庚申待霊／安楽所俅白」、右面に「熊蔵／市兵衛／弥兵衛／与左衛門」、左面に「藤十郎／四郎右エ門／金左エ門／又三郎」とある。

表１　吉橋の高本八幡宮前の万治３年銘庚申塔の写真と銘文

<table>
<tr><th colspan="2">正面上部</th><th>正面写真</th></tr>
<tr><td colspan="2">万治三天庚子十月吉日
（梵字）為庚申待現当二世悉地成就処
講人数十八一結諸衆
白　　敬</td><td> </td></tr>
<tr><th>左面</th><th>正面</th><th>右面</th></tr>
<tr><td>聞かざる（不聞猿）像</td><td>見ざる（不見猿）像</td><td>言わざる（不言猿）像</td></tr>
<tr><td>与七郎
勘十郎
甚四郎
又□郎
三良右エ門
新十郎</td><td>惣七
半左エ門
六左エ門
彦次
吉兵衛
庄十良</td><td>市左エ門
四良右エ門
佐五良
惣十郎
惣九郎
新藏</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
</table>

なお、『白井町石造物調査報告書第１集』（注２）にも銘文の記載があるが、実見して、調査報告書の不明字が判明したほか、釈読に間違いもあることがわかった。また正面最後の「俅」は「敬」の異体字ではないかと思ったが、異体字に該当はなく、「俅白」とした。「俅」は、音で「キュウ」、訓では「いただく」と読む。

三猿は正面に不聞猿、右面に不見猿、左面に不言猿の像があり、リアルで浮彫である。

全体の形は、同年銘の八千代市島田字通原の天和２年銘三猿塔と類似している。銘文は島田が日蓮宗系なので異なるが、様式とデザイン、猿の像容が一致し、同一の石工の手になるものと推定される。

表 2 に、白井市上長殿庚申塚の天和 2 年銘塔のほか　比較のため白井市富ヶ谷薬師堂と延宝 3 年銘（1675）塔と、八千代市島田字通原と同平戸字道地の天和 2 年銘塔の写真を掲載した。（平戸字道地の天和 2 年銘塔は、前号で入れ違った写真を、今回正しい写真に入れ替えた。）

表 2　白井市と八千代市天和 2 年銘の三猿三面彫庚申塔

⑤延宝３年（1675）
白井市富ケ谷薬師堂

⑩天和２年（1682）
白井市上長殿庚申塚

⑦天和２年（1682）
八千代市島田字通原

⑧天和２年（1682）
八千代市平戸字道地

３．神奈川県の三猿三面彫庚申塔・補遺

前号で、三猿三面彫庚申塔を関東地方に広げて探したところ、千葉・東京・神奈川・埼玉の都県域で 63 基を確認、その半数は神奈川県域であった。また神奈川県内の寛文初期の三猿庚申塔の特徴として、宝篋印塔や反花座の上に立つ大型の笠付角柱塔など三猿三面彫庚申塔の原形と想像させる庚申塔が見られた。特に寛文・延宝期の数量の多さなどから、神奈川県域には万治に遡る初期の三猿三彫面庚申塔があるのではないかと思い、画像と銘文が明らかな調査データを Web 上で一点ずつ探してみた。主なサイトは「神奈川県の庚申塔」（注 3）で、県内各自治体の石造物調査報告書の悉皆データから、実見して撮影した膨大な量の庚申塔が掲載されている。

その中から、探し出した江戸期の三猿三面彫庚申塔の数は 335 基。石幢や石灯篭などの角柱型以外の石造物の類型も別に 13 基あったが、全て寛文元年以降のみで、目的とした万治 3 年以前の三猿三面彫庚申塔は見つからず、八千代市高本の万治 3 年銘がやはり最古という結論になった。

335 基の三猿三面彫庚申塔の年代別の数量は表 3 の通りで、寛文期から元禄期までの 17 世紀後半に多く、18 世紀前半に少なくなり、同後半にはほとんど見られなくなる。

表 4 では、神奈川県域の寛文期の三猿三面彫塔 44 基を紹介した。なお、前号で載せた 11 基は除いた。この調査結果から初期庚申塔、特に三猿三面彫庚申塔の分布の主流が、初期庚申信仰と山王信仰と関係性強い神奈川県域であることは否めないであろう。

表 3　神奈川県域の三猿三面彫庚申塔の年代別内訳

紀年銘	西暦	基数	紀年銘	西暦	基数
寛文元～寛文 10	1661～1670	39	享保 16～元文 5	1731～1740	13
寛文 11～延宝 8	1671～1680	49	元文 6～寛延 3	1741～1750	8
延宝 9～元禄 3	1681～1690	54	宝暦元～宝暦 10	1751～1760	4
元禄 4～元禄 13	1691～1700	54	宝暦 11～明和 7	1761～1770	2
元禄 14～宝永 7	1701～1710	22	明和 8～文政 2	1771～1819	3
正徳元～享保 5	1711～1720	30	年銘不明		37
享保 6～享保 15	1721～1730	20	総数		335

表 4　神奈川県域の寛文期三猿三面彫庚申塔一覧（『史談八千代』45 号掲載分を除く）

No.	年銘	西暦	所在市町	所在地	銘文などの特徴
1	寛文元	1661	三浦市	栄町 4-7 真浄院	「毎年六度庚申・造立一ヶ石碑」
2	寛文 3	1663	横浜市	栄区金井町会館	主尊＝阿弥陀像　梵字（キリーク）
3	寛文 5	1665	平塚市	出縄　個人宅前	四面に山王二十一仏の種子「奉庚申供養」
4	寛文 5	1665	平塚市	横内神田寺	「奉造立庚申供養石塔爲二世□樂」
5	寛文 5	1665	平塚市	長持熊野神社	「奉造立□□」「□内二世安樂也」
6	寛文 5	1665	平塚市	入野八坂神社	「奉□造立庚申供養」
7	寛文 5	1665	秦野市	南矢名東光寺	バク「爲庚申供養也」
8	寛文 5	1665	秦野市	鶴巻北 2 西光寺	「[供養二世安樂□　為山王]」
9	寛文 6	1666	平塚市	片岡 811 龍源寺	「奉造立石塔一基」
10	寛文 6	1666	秦野市	菩提 1607	「奉請山王権現」
11	寛文 7	1667	秦野市	下大槻 建速神社	・「庚申供養」

12	寛文 8	1668	大磯町	生沢 1097	「□爲二世安樂也　敬白」
13	寛文 8	1668	中井町	遠藤五所八幡宮	「奉造立庚申供養」
14	寛文 8	1668	大井町	金子老人憩い家	アン・オン・カーン・カーン・カ・・・
15	寛文 8	1668	小田原市	田島田島地蔵堂	「奉造立山王宝塔供養諸願成就所」
16	寛文 8	1668	小田原市	下大井公民館	アーンク・アン　ナウ・カ・ダ・バク・・
17	寛文 8	1668	伊勢原市	高森 2642 付近	「常兩々□庚申」
18	寛文 8	1668	伊勢原市	東富岡龍散禅寺	「南無阿弥陀佛」
19	寛文 8	1668	伊勢原市	下谷薬師堂	
20	寛文 9	1669	大磯町	生沢 886	キャ・カ・ラ・バ・・「爲奉造立庚申」
21	寛文 9	1669	横浜市	鴨志田町甲神社	卍「山王権現奉建立□□」「南無阿弥陀仏」
22	寛文 9	1669	平塚市	真田天徳寺	梵字は山王廿一社「奉造立庚申供養」
23	寛文 9	1669	大磯町	寺坂 639 王福寺	「□二世安□立之　敬白」
24	寛文 9	1669	二宮町	一色 765 浄源寺	「奉造立庚申供養」
25	寛文 9	1669	小田原市	酒匂共同住宅前	「奉造立供養庚申宝塔」
26	寛文 10	1670	鎌倉市	大町八雲神社	主尊＝阿弥陀像「奉造立山王二十一社」
27	寛文 10	1670	中井町	井ノ口 4056	「爲庚申供養也」
28	寛文 10	1670	中井町	五分一自治会館	「奉造庚申供養」
29	寛文 10	1670	松田町	庶子桜観音堂	「奉造立庚申」
30	寛文 10	1670	松田町	松田惣領延命寺	「山王大權現」「庚申供養祈願」
31	寛文 10	1670	愛川町	田中 1197 鑑照寺	「奉造立庚申供養」
32	寛文 10	1670	秦野市	平沢増珠院	「□□申□供養　施主　敬白」
33	寛文 11	1671	平塚市	高根 359	「青面金剛」金剛五仏種子　大日如来真言
34	寛文 11	1671	中井町	比奈窪自治会館	「奉造立庚申供養」
35	寛文 11	1671	伊勢原市	上粕屋石倉不動堂	バク・「奉庚申供養□」
36	寛文 11	1671	秦野市	堀川 707	「山王大権現」
37	寛文 11	1671	秦野市	西大竹 310	「[佛諸行無常]」「奉造□申[庚]供養塔」
38	寛文 11	1671	山北町	向原鷲鷹集会所	「奉造立山王大権現」
39	寛文 11	1671	山北町	岸　盤石院入口	（ア・バン・ウーン）・「山王大権現」
40	寛文 12	1672	平塚市	南金目 27 春日社	「南無妙法蓮華経奉勧請大山王権現」
41	寛文 12	1672	平塚市	飯島 505 明珠院	「奉□立庚申供養」
42	寛文 12	1672	伊勢原市	上粕屋熊野神社	「[庚申　二□安楽]」
43	寛文 13	1673	横浜市	飯島町三嶋神社	主尊＝阿弥陀像
44	寛文 13	1673	横須賀市	大矢部満晶寺	主尊＝青面金剛像

４．千葉県の三猿三面彫庚申塔・補遺

写真：野田市光岳寺の庚申塔

千葉県下の追加情報では、野田市関宿台町光岳寺の庚申塔群の中に、かなり風化した駒型の庚申塔（右写真）があり、三面に三猿が彫られていることがわかった。

石田年子氏のご教示によれば、法量は 82×31×16 ㎝、銘文は「（日）（月）／（ア）　奉供養庚申／元禄[　]巳天□月／（人名 9 人）」で、元禄 2 年（1689）または 14 年（1701）銘と推定されるとのことである。

おわりに

前号で万治 3 年銘庚申塔の銘文については、拓影も合わせて掲載したことにより、読者から人名銘についてのご指摘をいただき、再検討して修正することができた。

八千代市に隣接した地域の追加調査を行い、白井市上長殿の庚申塔を調査した結果、類型の広がり、特に島田字通原の同年の庚申塔との意匠の類似が明らかになった。

また、神奈川県域の庚申塔悉皆調査の結果を Web 上で調べたところ、三猿三面彫庚申塔の分布の中心が、寛文期から神奈川県域であることがより鮮明になった。しかし高本の万治 3 年銘より遡るものはなく、その淵源についての謎は残った。

今後とも、類型の分布と高本の庚申塔成立のルーツとなる石造物について、追及していきたいと思う。

最後に、銘文の釈読についてご教示いただいた早川正司氏、平塚市高根の寛文 11 年塔（表 4 の No.33）の情報をくださった多摩野佛研究会の石川博司氏、野田市光岳寺の庚申塔の情報をくださった野田市文化財保護審議会委員の石田年子氏、白井市上長殿庚申塚の場所をご案内くださった白井市文化センターの高花宏行氏に、厚く御礼申し上げます。

注

1. 蕨由美「高本の万治 3 年銘庚申塔とそのスタイル「三猿三面彫塔」の広がり」『史談八千代』第 45 号　八千代市郷土歴史研究会　2020 年
2.『白井町石造物調査報告書第 1 集』白井町教育委員会　1986 年
3.「神奈川県の庚申塔」http://tatsu024633.livedoor.blog/